

新城市民病院での研修を終えて 名古屋第一赤十字病院

今回の研修が始まるまで、中村日赤では、急性期の患者や比較的まれな疾患あるいは特殊な治療が必要な疾患を見ることが多かった。そのような最新の医療に対する知見や経験を深めていく一方で、一般的かつ慢性的な疾患はかかりつけ医で管理されていることが多く、自ら治療計画を考えていくことがありませんでした。また、急性期でも軽症な疾患は翌日の専門外来に送ってしまうため、やはり同様に自分で治療の効果を自分の目で確認できずにいました。

新城市民病院では、午前中は初診の方の診察を行い、午後は救急車対応、病棟業務をしていました。自分の担当患者は、自分が初診を担当した患者であり、最初から最後まで患者さんと関わることができました。どのように治療していけばよいか、今の治療法はうまく行っているか、今後はどのような方針で行けばいいのかを常に考え、指導医の先生と相談しつつ様々なことを考えることができました。うまくいくこともありましたが、逆に理論的に正しくても実際にはそのようにいかないことも多く、臨床の難しさと、常に先を考え別の方法も考えておくことの大事さを学ぶことができました。また、日赤では入院とならないような患者さんを入院で見ることができ、良い経験になりました。患者さんとの関わり以外にも、朝の勉強会では最新の知見に関して学ぶことができ、夕方の振り返りでは自分の診療に対するフィードバックや、難しい症例を共有することができ、大変勉強になりました。

また、この度は院外でも研修をさせていただきました。作手診療所では安定している患者さんのフォローを見て、地域に根ざしている患者との距離が近い医療現場を見学することができました。疾患のこと以外にも生活環境にも気を配り、医療の面以外からも患者さんを支える姿勢がとても印象的でした。介護老人保健施設では、医療よりも介護や保健の支援を必要としている、普段は余り見ることができない貴重な現場を拝見することができました。

今回の研修で、いままで自分が患者さんと接してきた方法とは違う方向から患者さんに接している、様々な現場を見学することができました。これまでは、普段の研修で自分ができることが限られていることに気づいており、いいようのない無力感を感じておりました。しかし今回の研修で、自分ではできなかったことが行われている現場を見学し、自分だけでいろいろ何かしなくては、と考えるのではなく、別の立場からしっかり患者さんを見てくれる人がいることを認識し、適切に協力を依頼することが患者さんのためにも大切なことであると学ぶことができました。今回の経験を日々の診療の糧にし、より具体的に協力を依頼することができるようになりたいと思います。

最後になりましたが、今回の研修でお世話になりました、総合診療科の先生方、並びに看護師、事務、理学療法士、医療ソーシャルワーカーの方々に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。